



# センター通信

森林技術・支援センター

森林技術・支援センターは、北海道全域を活動フィールドとして、地域で求められる林業技術の開発・普及に取り組んでいます。

今回は、各種発表会等における当センターの技術開発成果の普及・PR活動について紹介いたします。

なお、今年度の当センターの発表内容はいずれも、人工林伐採後のカラマツの天然更新に着目したものです(文末参照)。

## 技術開発成果発表会

(10月30日)

道内の研究機関(森林総合研究所北海道支所・同北海道育種場・北海道立総合研究機構森林研究本部林業試験場・同林産試験場)と連携して、平成26年度から当センターが主体となって継続開催しています。

この発表会は、それぞれの機関の研究成果を森林・林業に係る多くの方々に広く知っていただ

くことを目的としています。

今年度も、当センターの発表以外では、衛星画像を用いた森林被害の把握、野生生物観測、新しいエゾマツの育苗技術、コンテナ専用小型運搬機の開発など、幅広い分野での情報を参加者にお伝えすることができました。当日、造林・木材生産関係の林業事業体、あるいは指導林家、行政機関等多様な皆様の参加をいただきました。



技術開発成果発表会での発表

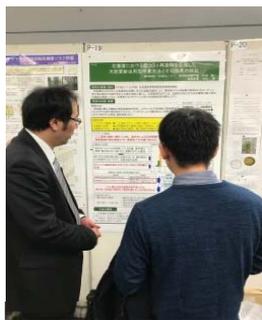
また、終了後に記入いただいたアンケートを通じて貴重なご意見をいただきましたので、今後の参考にさせていただきます。と考えています。

## 北方森林学会

(11月15日)

道内の森林・林業の研究機関、大学関係者等が日頃の研究成果を発表する大会です(主催は北方森林学会)。

当センターはポスター発表で参加しました。持ち時間は、一時間ほどの短い間でしたが、たくさんの方々と意見・情報交換を行い、有意義な時間を共有することができました。



北方森林学会での情報発信

## 国有林野事業業務

研究発表会(11月29日)

毎年、林野庁において開催され、各森林管理局から森林の効率的な整備手法、森林環境教育の推進、森林生態系の保全管理の取り組み等についての発表があります。森林

技術・森林ふれあい・森林保全の3部門に分けられており、当センターは森林技術部門で発表を行いました。

今年度、当センターは、「日本林政ジャーナリストの会会長賞」を頂くことができ、今後の励みとなりました。

現在、北海道森林管理局全体で、多様な森林づくりに取り組んでいます。が、それらの実現に向けては、いろいろな視点から森林を見ることが重要です。従って、このような各種発表会等における情報発信・意見交換は、非常に意味があるものだと感じています。

今後も引き続き、積極的に参加していきたいと思っています。



天然更新したカラマツの稚樹